



## JAMCA ニュース

No.113

2022年4月1日

発行  
協会事務局全国自動車大学校・整備専門学校協会  
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31  
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066

編集事務局

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988  
ホームページアドレス <https://www.jamca.jp/>

## 自動車整備士技能検定規則等の一部改定に関して



専門学校 トヨタ東京自動車大学校 校長 上田 博之  
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

2022年(令和4年)も、コロナ禍でのスタートとなり、この原稿を書いている時点では、オミクロン株による感染者数は県によってピークアウト傾向がみられているものの、重症患者は増加しており、未だ多くの自治体がまん延防止等重点措置の継続実施となっております。

本号が発刊される頃には、終息していることを祈念しています。

さて、昨年末に国土交通省から第23回自動車整備技術の高度化検討会 議事概要で自動車整備士資格制度等見直しWG報告に関する内容が公開されました。

昭和26年8月に自動車整備士制度が制定された後、8度の見直しを実施されてきましたが、今回はカーボンニュートラル、CASE、MaaSといった急激な技術革新に加え、近年の整備人材不足への対応、整備士の魅力向上を加味した検討がなされました。

この検討は、2019年秋から開始されましたが、コロナ禍の影響を受け2年という期間を有することになりました。

私も、JAMCA理事として、ワーキンググループに参加し、教育現場の立場から意見を述べさせていただきました。

先に述べた様に自動車整備士資格制度等見直しの目的としては、大きく3点、1つ目は自動車の変化・技術の進展に伴う対応、2つ目が自動車整備事業に起因する対応、最後に整備人材不足に対応した魅力向上です。

1点目の技術面では、今後主力と

なっていくと思われるバッテリーEV、自動運転、コネクティッドといった電子制御技術及び通信技術の整備は必要不可欠であるという事です。現在、これらの技術が養成課程に含まれているのは、一級整備士課程の一部でしかありません。

2点目は、現在の制度では一級と二級整備士には役割として大きな差はなく、特定整備制度に伴い整備工場での整備士の種別と役割を見直す必要性がありました。

3点目の魅力向上は、近年の整備人材不足への対応として整備士の社会的地位向上をどのようにすべきか、という事です。

見直しの大きなポイントとしては、二級、三級整備士の種類がガソリン・ジーゼル・シャシの3種類から一級の小型・大型も含め、級ごとの自動車整備士資格に統合されました。また、見直しにあたっては学科及び実習それぞれの総標準時間の大枠は変更しない事が前提となっております。

次に、自動車整備士技能検定の試験項目についても見直され、一級の実技試験は、口述要素を含めた内容とすることで口述試験を廃止し、学科試験も年2回実施する方向性でまとまりました。更に、就職・進学への影響があった合格発表も3月内に見直しされます。

また、整備士の魅力向上の観点から、自動車整備技術の高度化検討会では、特に一級整備士の優位性(あるいは位置付け)ということで検討さ

れてきました。

新制度では、自動車検査員に選任できる資格として一級自動車整備士のみが担う事も検討されましたが、その場合の一級整備士の要員確保についてさらに検討が必要ということで今後の継続検討課題となりました。

整備士の魅力向上についても、引き続き検討していくこととなっております。

新制度は、二、三級自動車整備士については、令和9年施行される予定であり、我々一種養成施設では令和7年度から新課程が始まります。

今後は、国土交通省をはじめ関係団体の皆さんとしっかり連携し、新制度へ移行するとともに、これを機に自動車整備事業の社会的な重要性とその魅力を多くの若者に再認識してもらい、一人でも多くの自動車整備士の育成に努めてまいりたいと思います。

この先、自動車業界の大変革により、レベル5の自動運転車がメンテナンスのため、ラボファクトリーに入庫し、オートモービル・システムエンジニアが診断するといった時代が直ぐそこに来ているのかもしれない。

## CONTENTS

2面	“自動車整備士資格制度等見直しへ”
3面	クルマ大好き!・活躍!!女子!卒業生
4面・5面	“環境に関するキーワードと自動車業界の今後について”
6面・7面	協会トピックス・地区通信
8面	私の教材活用・お知らせ・編集後記